

四極大分

〈発行責任者〉高井 道晴
 〈題 字〉桑原 豊
 〈発 行 所〉
 大分市金池町 2-7-21
 パークサイド大分駅まえ302号
 四極会大分支部
 TEL (097) 538-2462
 FAX (097) 529-6623



「速吸瀬戸(豊予海峡)」 村尾 哲弘(大学7回)



和田 康生 (大学2回)

四極の絆

四極会の集いで唄う校歌、寮歌、逍遙歌に出てくる紺青の海、由布、鶴見、四極山、大分川、宗麟―私たちが育んでくれたルーツがそこにあります。

高商時代から豊かな自然環境の中、培われた温かい人間性と包容力、剛毅木訥、進取の気魄、そこにはいい意味の「野武士の風格」が脈々と流れています。

私は昭和二十九年大学二回卒。当時入試は二期校でしたが、競争率は三十倍を超える厳しいものでした。戦後男女共学となり私たちの前後の学年には数名の女子学生が在籍したのに、何故か二回生には女子ゼロという残酷な淋しい学年でした。

講義の中で印象深かったのは、梅田政勝教授の経済原論。小さいメモを片手に名講義のケインズ近代経済学を学びまし

た。草場勇教授の民法、先生は母校教授、後に学部長として志高湖へ学生と遠遊に参加、講堂では卒先して腰に手を当て、一緒に校歌を斉唱し、一体感がありました。思学会の生みの親です。

田中喜一教授の交通論、観光研究会で調査のお手伝いをし、先生と一緒に別府温泉に浸かり、柳屋のラーメンを食べべ家族的なおつき合いをいただきました。田中ゼミでの五人の仲間は今でも親交を続けています。

田中教授の愛弟子、田原栄一母校教授(大三回)が後を継がれ、私の現役時代に大分での日本交通学会にお招きいただいたり、四極会理事会で一緒に来たのも、田中先生のご縁と感謝しております。

英語の佐瀬順三教授のシンプルなスケッチ、ワズワースの詩は今でも忘れません。母校の逍遙歌は先生の遺された作詞です。

岡田、羽倉、高崎、白木原、繰生教授はじめ懐しい先生方の顔が浮かんできます。

上野の旧講堂二階の裏部屋には、チェコ製のチェロ、マンドラが残っており、高商時代の音

楽部華やかかなりし頃が偲ばれました。同好の士九名でマンドリンとギターを持ち寄りマンクラを発足。合奏の楽譜がなく、私が竹田の福田五彦先生(後大分M.C会長)を訪ね転写したものを、荒木君が編曲。市橋、安部、宗、中川、宮瀬君らと演奏しました。

これが分大経済学部マンドリンクラブの隠れた知られざる前史でもあります。

四極会の強みは、先輩、後輩の絆です。

大分銀行では野内頭取(高商一回)、河野専務(高商七回)外有能な多くの先輩、後輩に恵まれました。その後は金曜会(解散、成和会に合流)に入れていただき、そこでは高山、桑原、田中元四極会長はじめ、高商、経専卒の大分県経済を支えてきた錚々たる大先輩ばかりで、毎月自由闊達に時事政経問題を議論する、最高の情報交流の場でありました。

私も今年米寿、年を重ねるにつれ、四極の絆の強みを改めて痛感し誇りに思っています。

母校創立百周年記念を迎え、益々母校、四極会の発展を心よりお祈りするものです。

四極会大分支部総会



平成三十年度大分支部総会は五月二十五日(金)午後六時よりトキハ会館で開催された。来賓として、石川公一四極会会長、相良浩名誉会長、大崎美泉経済学部長、大分市内の七つの職域支部長、別府支部長、福岡支部長のご出席をいただいた。総会では平成二十九年度事業報告及び決算報告、平成三十年度事業計画及び予算案が満場一致で承認された。三十年度事業計画には、来るべき経済学部創立百周年

年に向けた募金活動の推進、この二月に設立された女性部会「桃優会」の支援等が盛り込まれている。また、四回目を迎える芸術文化祭「自遊展」は、大分県で開催される「国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭」に賛同し、県の助成金を受けて例年よりも規模を拡大して実施することも承認された。

その後、懇親会場に場を移し、先ず尾登憲治さん(大22)が芸術文化祭「自遊展」でのインタビュー等を取りまとめた映像作品を鑑賞。続く懇親会は百四十七人が参加して吉田茂さん(大43)の司会により進められた。来賓挨拶の後、今春就職した十三人の新入社員と経済学部思学学生会生三名による自己紹介があった。今回は待井弘道(大27)福岡支部長の乾杯で懇親の宴が開始された。懇談が進んだところで、本年度中に八十歳を迎えられる渡部昭三さん(大10)を初めとする五名の先輩に傘寿のお祝いとして花束と記念の菓子が送られた。菓子は地場のメーカーから寄贈されたその名も「四極山」。最後に木山広喜さん(大10)のハーモニカ演奏に合わせて全員で校歌、寮歌、道遥歌を合唱し、相良名誉会長の締めのご挨拶で終了した。



第六回学生と先輩との交流会

① 第六回学生と先輩との交流会

平成二十九年十一月九日に学生百名、先輩六十一名が集まったホルトホール大分で開催された。石川公一四極会会長と大崎美泉経済学部長からの祝辞を頂戴したのち、二十七の企業、団体が各一分で企業紹介をしたのに続き、学生と先輩との懇談に移った。

仕組みはこうだ。先輩が十五のテーブルに分かれて控え、そこに七、八名の学生が対面する。十五分経つと学生は別のテーブルに移動して新たな組み合わせで意見交換する。これを繰り返して学生は多くの業種・企業

若い会員が集う各種交流会

先輩と話をすることができ、終了時に回答してもらったアンケート調査の結果には、学生・先輩ともに大変満足したことが表れていた。コメント欄には次のような記述がみられた。

学生からは、・先輩ということで親近感があり、自分の疑問を素直に質問できた。・働く先輩を身近に感じた。・知らなかった企業、業界に視野が広がった。先輩からは、・学生の不安がよくわかった。・学生の考え、トレンドがわかった。・刺激を受けた。

六回目を迎えたこの会は、年々学生の参加者が増加し、経済学部からも高い評価をいただいている。同窓会が大学に貢献できる貴重な機会である。

アンケート調査の結果

	(人)	
	学生	先輩
大変有意義だった	66	28
まあまあ有意義だった	12	18
余り有意義ではなかった	2	1
全然良くなかった	0	0
計	80	47

参加団体・企業

(企業・団体名順不同)
 大分県庁、大分市役所、大分大学、大分銀行、豊和銀行、大分県信用組合、大分みらい信用金庫、ジェイリース、大分合同新聞社、大分放送、オーイーシー、大分トヨタ自動車、大分ダイハツ販売、梅林建設、佐伯建設、西日本電線、豊後企画集団、積和不動産大分、トキハ、大分バス、大分ゼロックス、グッド・P 社会保険労務士事務所、池田税理士、中小企業診断士事務所、ソニー生命保険、スタジオエーシー

② 職域交流会

平成三十年度の職域交流会は七月十七日に開催された。大分支部の十五の職域と市内にある六つの職域支部から七十三名が参加。「現役で働いている同窓生がお互いを知り、絆を深めて刺激しあい、場合によってはどんな仕事にも活用しよう」と高井支部長が挨拶。来賓の石川会長は百周年に向けた同窓生の協力を訴えた。

今年新たに県庁支部長に就任した長谷尾雅通さん(大30)は乾杯の挨拶で、一週間前に発生した西日本豪雨の被災地に県職員が大勢派遣されていることを紹介した。

懇談は年齢の近い同窓生が一緒になるように配席されたテー

ブルで、顔なじみの人、初対面の人が、仕事のこと、同級生のことなどの話題で盛り上がった。やがて席を立って離れたテーブルに行き久しぶりの旧交を温めたり、日ごろの御無沙汰を詫げる姿も目立つようになった。

後半は、各職域の代表が壇上上がったのショート・スピーチ。職域四極会の活動状況、業務のPR、個人的な抱負など、同窓生が活躍している姿が生き生きと浮かび上がり、聞く方も刺激や感動を受ける和やかで楽しい意見発表の場になった。

最後は、テレビ大分の工藤晴久幹事（大32）が落語調の力こもった挨拶で皆を笑いの渦に巻き込みながら会の締めをしてくれた。

現役でバリバリ働いている人たちが集う、活気にあふれた、同総会活動の中でも特色のあるイベントとして定着してきた。

〈職域支部〉（企業・団体名順不同）
大分県庁、大分市役所、大分銀行、豊和銀行、大分合同新聞社、大分大学、ジェイリース

〈職域企業〉
大分県信用組合、大分交通、大分商業高校、大分トヨタ自動車、梅林建設、佐伯建設、オーイーシー、大分朝日放送、テレビ大分、トキハ、トキハインダストリー、豊後企画集団

〈一般会員〉

JR大分シティ、大分ゼロックス、住むネット大分、三重総合高校、県議会議員、税理士事務所



職域交流会

四極鼎談



卒業年順に巡ってきて、今回は大学十四回の四人による座談会。若かりし学生時代と卒業後五十余年の来し方を振り返っていただいた。過ぎし日の思い出は懐かしい。

☆学生時代の思い出は尽きず

安東 分大の経済に何で入ったかという、大分に国立は学芸と経済しかなかったというの理由ね。学芸に行ったら将来は教員と決まってる。それも面白くないなと思って経済に行こうかと。入ってみたら女性が三人しかいなかった。

森 私の場合は、分大経済なら



安東 佳子氏（旧姓釘宮）

就職は全く問題ない、と聞いていたので入学したと思う。

大石 あの頃は出身地区ごとにコンパをすることも多かった。私は、田川や直方など筑豊地区出身者で集まっていた。今は麒麟大使館になっている場所にあった田舎庵なんかでね。

次森 大分市は多いから、上野丘卒だけでやってた。そのコンパの時に、後に安東さんの御主人になる先輩に誘われてマンダリンクラブに入ったのが、今

に続く楽器演奏とのなれそめだね。
大石 僕は出身の嘉穂高校が柔剣道で全国優勝するような高校で、自分がしていたわけではなかったけれど、剣道部の大将に誘われて剣道部に入った。剣道部には同期生が七人と多かったよ。

森 クラブ活動はESSでした。私自身、実力はともかく、英語好きであったことは間違いなく、クラブ活動に参加するのが楽しかったです。クラブ活動も同じゼミも同じという者もおり、卒業後も長い付き合いとなりました。

安東 私は先輩の女性から強制的にESSに誘われてね。開学祭に英語劇があつて、それに女性がいるからの理由でね。でも面白かった。ESSでは高校生の英語弁論大会のお手伝いともしましたね。

☆大きかった寮の存在

大石 寮で恒例の、上級生が飲んで部屋に怒鳴り込んでくるストームね。先輩が徒党を組んでやって来るんだよ、一人ではなくてね。新入生の時は驚いたが、上級生になると楽だったね。

次森 僕は寮には何度か行ったことがあるくらい。同期生の五十人ぐらゐが入っていた。学生数は経済学科と経営学科それぞれ八十人の合計百六十人位だったから、同期生の三分の一が寮生だったわけだ。寮生は思学活動に熱心な組がいるなど結束が強くて、今も同期会等で

は元寮生が世話人をしてくれることが多いね。

大石 経済学部と学芸学部が統合して新キャンパスに移るといいうので、上野の経済学部から且野原まで駅伝をすることになった、その第一回に僕も寮の長老グループとして出場した。十五くらいチームが出たかな。上野から十号線に下りて当時あった甜菜糖工場までが一区だった。大分バスに就職した後、事務の職員からバスの手配を頼まれることもあったから、卒業後もしばらく続いていったようだけど。



大石 政臣氏

☆学業、先生方

大石 高橋秀行先生の欧米経済史は、ドイツ語の本を読まないかんから大変だった。田原榮一ゼミも英語、ドイツ語などの原書だった。

簿記は白木原孝臣先生だったけどあまり勉強しなかった。教職を取るために大分商業の実習で簿記を教えるのに苦労したよ。ところが大分バスに就職して経理畑を長く歩むことになったから皮肉なものだ。

森 ゼミは新田俊三先生でした。先生の官舎が学内にあって、ゼミ

ミ生一同官舎でよく議論したと思う。夏休みに先生が江の島におられたのでお邪魔し、ついでに富士山に登ったのもいい思い出だ。四年生の時は新田先生が東洋大学に行かれたので、中村広治先生のゼミとなり、就職の際は大変お世話になった。

また卒業後も、協和銀行大分支店にいた越田君と、先生の研究室で日本経済についてご指導いただいた。

安東 私の入った繰生正男先生のゼミは五人でね。女性がいるから泊りがけのゼミ旅行はしないと先生が言われて、日帰りであっちこっち釣りに行きました。芹川ダムには何を釣りに行ったのだったかしら。

☆あの頃の学生生活

大石 我々の頃は授業料が安かったね。年間九千円、半期で四千五百円。一年上の学年はもっと安く三千元だった。今の学生は大変だ。

安東 アルバイト料も安かったけどね。週一回で確か月に千円だったかな。依頼が多くて週に五日か六日入っているときもありましたよ。中学生だった子が今も「先生、先生」といって会いに来てくれるのは嬉しいですね。

次森 普通は三千元くらいもらっていたよ。

森 寮費も食事代込みで三千元程度だったので、助かりましたね。

次森 そのかわり栄養士さんは限られた予算の範囲内で調理す

るのが大変だと聞いていたよ。**安東** 市内にカトレアとかウイーンとかおしゃれな喫茶店が



次森 彬氏

たくさんありましたね。

大石 歌声喫茶にもよく行っていたよ。ロシア民謡や唱歌をみんなで歌う。

映画館は中央シネマと東宝と松竹があった。シネマは三十円だからしょっちゅう行っていた。あれは良かったね。

☆卒業そして就職

次森 私は幼稚園から小学校・中学校・高等学校・職場と、結婚するまで親元から通いました。こういう人は少ないだろうね。私達の就職は昭和三十九年東京オリンピック翌年の不景気に重なったね。公務員人気が高まり、県庁にもそれまでは経済学部から数人だったのが急に六人に増えた。後に四極会事務局長を務めた衛藤伸一君等が一緒だった。当時は最終的な採用決定が年度末ぎりぎり、三月三十一日に就職課に報告したのを覚えている。

入った年に大分国体があり、最初の職場で行幸啓本部を経験した。その後、三重と日田・玖珠の地方機関に十年行った以外は大分勤務だった。就職して二

年後に三重町に転勤し、しばらくは鉄道で通勤したけれど、朝が早く辛いで事務所の近くに部屋を借りました。日田市、玖珠町では単身赴任も経験しました。第一回九州青年の船の事務局員として沖縄、フィリッピン、香港に行ったこともある。玖珠では陸上自衛隊日出生台演習場で第一回在沖縄米軍海兵隊の実弾射撃訓練があり、警察と合同で警備に当たりました。

安東 私は就職のお世話をしてもらおうといろんな先生にご相談したけれどなかなか推薦してくださなくて、それよりも永久就職しなさいと。結局三月に卒業して四月には結婚しました。男女雇用機会均等法などができて就職しやすくなった今の女性

は羨ましい。**大石** 大分バスに入って最初は一か月、バスの車掌をした。佐賀関線とか湯平線だね。湯平から帰って滝尾循環に乗ると終わるのは夜十時になった。ボンネットバスの時代で、お客様の乗車降車が多い時は切符を売るのも苦労したよ。

森 大分銀行に就職し、本店で勤務していた昭和四十五年に、米国夏季大学講座に派遣するという研修制度ができた。私、運よく第一回の派遣者三名の中に選ばれ、六月に出発した。昭和四十五年はまだ一ドルが三百六十円の時代でした。翌昭和四十六年がニクソンショックになり、十二月には一ドル三百八円になりましたね。

参加者は横浜銀行、広島銀行、福岡銀行等、地銀の者が多

く、研修内容は充実していました。カリフォルニア州立大学で一ヶ月講義を受けた後、西海岸から東海岸までホームステイ等をしながらバスで移動し、この目と耳でアメリカという大國を知りえたことは、かけがえのない経験、勉強になりました。帰国後の仕事は外国為替業務を担当することが多かったです。



森 修吾氏

☆仕事を離れて

大石 今は碁を打つ毎日だ。週三日は敷戸の公民館。駕野の公民館にも行く。同期生の余瀬貞彦君と一緒に大分支部の四極囲碁大会の幹事もしているよ。ゴルフもするけど下手糞。

安東 私もゴルフクラブ一式買ってやりかかったけどね、朝早くから長時間拘束されて、主婦の私には向かないと思って止めた。テニス、卓球、太極拳といろいろしたんですよ。子供が小学生のときはママさんバレーやママさんソフトも。

今は小学校で読み聞かせをしています。一年生から六年生まで、朝八時十五分からね。今年で七年目になる。学年ごとにそれぞれに向いた本を自分で選ん

でそれを読む。年間千冊発行される絵本の中には大人にも薦めたい素晴らしい本もたくさんありますよ。平和を扱った本とか最近では認知症の高齢者を取り上げたものも。柳田邦男氏や村上春樹氏が訳した外国の絵本もある。奥深く、児童文学を改めて勉強したいとも思っているほどです。

次森 自治会の仕事に力を注ぎました。たまたま順番で私が班長になった年に我が班に南町の会長が回ってきてね。それだけならよかったんだけど、次に敷戸校区八自治会長が集まって連合自治会長を選ぶのに誰も手を挙げる人がいなくて私が引き受けることになってしまった。

連合自治会長は小学校の評議員、児童育成クラブや公民館の運営委員長等、付随する役回りが多くて毎日のように「出勤」。登下校児童の見守り、公園の草刈り・清掃、公立幼稚園・小学校・中学校の行事、校区公民館祭り、校区体育祭への参加等数々経験しました。おかげで多くの知り合いもできました。

マンドリンは卒業と同時に大分マンドリン協会に入りました。指揮は安東先輩がしていました。韓国のグループとの交流では、たまたま当時の私の所属が国際交流課だったこともあり、韓国からの国際交流員に助けられました。県内にある学生・社会人・職場のマンドリン演奏団体が結成した大分県マンドリン連盟では、平成十三年から会長を務めているが、ぼつぼつ引退の時期が来たようです。

引退の時期が来たようです。

森 六十歳で会社を辞めて自治会活動に取り組み、七十四歳まで活動しました。

世帯数が約九百ある私どもの自治会では、ゴタゴタもあり、臨時総会を開いて問題の解決にあたりたり、役員同士でケンカをすることも多々ありました。しかしながら、役員のみなさんはやる気十分で、よく自治会全体のことを考えることが出来る人たちがばかりでしたので、最後は一致協力、夏祭り等のイベントの開催はスムーズに進めることができました。

ともかくにも、十五年間ほど自治会で頑張ることが出来、少しですが、自分に自信がわいてきた気がします。

☆後輩に

安東 今は外回りややって来る銀行の方もパートの外商の方も女性で、聞いてみると四極会ということが多くいます。女性会員には地元で活躍してほしい。私の年代は女性が少なかったから、女性が集まる会を持ちたいとずっと思っていたら、嬉しいことに、今年二月に女性の会が発足しました。桃優会。女性の皆さんには女性部の活動にも積極的に参加してほしいね。

次森 若い人は英語をしっかりと勉強してください。仕事で英語が欠かせない場面が増えていくからね。

森 私が今も心掛けているのは「報告」「連絡」「相談」です。自治会活動で実感したし、銀行員時代にやっかいな問題があり、

役員に報告し、関係部と相談することにより、解決が出来たことがありました。「報」「連」「相」を怠らないよう努力してほしいと思います。

次に申し上げたいのは、社会人になると、体力勝負の場が多くなるということです。踏ん張りどころで力を発揮できるのは、体力があつてこそです。若者はしっかりと体を鍛えておいてもらいたい。

― 対談者プロフィール ―

● 安東佳子 (旧姓釘宮)

大分上野丘高校卒業
昭和41年結婚
昭和45年まで東京、川崎、茅ヶ崎で暮らした後、帰郷
昭和48年、61年にかけて子どもの小学校、中学校、高等学校でPTAの役員、庶務・会計、学年部、広報部など経験
平成11年からボランティアグループ絵本の会に入り津留小学校で読み聞かせ

● 大石政臣

福岡嘉穂高校卒業
昭和41年大分バス乗入社
平成9年 同 退社
平成9年 日豊チエーン(株)社長就任
平成12年 同 退社
平成12年、23年 植田振興(株)

● 次森彬

大分上野丘高校卒業
昭和41年(株)大分銀行入行
昭和41年 大分県庁就職
平成16年 同 退職
平成20年3月まで県庁嘱託職員
平成20年 大分県障害者社会参加推進センター事務局長
平成26年 同 退職

● 森修吾

宇佐高校卒業
昭和41年(株)大分銀行入行
昭和62年 本店営業部外国課課長
平成10年 大分銀行退職
平成10年 大銀ビジネスサービスマン入社
平成13年 総務部長
平成15年 大銀ビジネスサービスマン退職
平成15年から30年3月まで自治会活動に取り組み、会計部長は10年務める

親睦会だより

ゴルフ大会

楽しみな
年二回のゴルフ会

春のゴルフ

大分竹中カントリークラブでのゴルフ大会は四月二十六日に開催された。開会式で高井支部長が、みなさんの日ごろの行いを反映したのしようと言った言葉そのもののゴルフ日和となった。最高気温十八℃。開始時は青くまぶしく晴れ渡った青空。やがて薄雲がかり、そよ風が吹いて暑くも寒くもない、絶好のコンディション下で楽しくプレイできた。

大会は本部の相良名誉会長と高井支部長による始球式でスタート。赤と青のスモークが勢いよく青空にはねた。参加者は例年よりやや少なくて二十七名。組み合わせは三人グループが四組、四人グループが四組。九時三十分のスタートで、十五時三十分には全員がプレイを終えた。会心のスコアで意気揚々と引き上げてくる人、楽しかったけれど成績は振るわな



かったという人。

表彰式は工藤晴久幹事(大32)の軽妙な司会で進行した。優勝し、併せてベストグロス賞にもなった阿南正美さん(大18)が、夢にみたことがないとは言わぬが実現すると思っただことはない」と名言。準優勝

登山会

秋の登山会は
中摩殿畑山

十月二十三日、台風二十二号の影響で秋雨前線が刺激されて雨がそぼ降る中、十五名が参加して秋の登山会が決行された。登るのは中摩殿畑山(なかもとんのはたやま)、福岡県境に近い中津市耶馬溪町の山である。

(行程)

七時 小雨が降る中、大分駅北側のバス発着場を十三名で出発。大分自動車道を走る途中、雨が止んで目的地の方角の雲が薄く見えることもあり。

八時十五分 日田IC
八時四十分 道の駅山国で休憩

岩伏地区を通り、マイクロバスは林道を慎重に進んだ。途中、バスを降りて道路の石や木

の切り株を除けたり、バスの方
向転換を手助けしたりと参加者
も苦労。

九時三十分 バスを降りて登
山開始

約1km林道を歩いて山道に
とりかかる。

小雨、途中で思い思いに雨具
を取り出す人も。

十時 小休止
林の中の急登攀

十時三十分 鉄塔建設のため
につくられたか、工事用道路ら
しき道に出る。約十分道路を下
り、再び山に入る。植林帯は既
に過ぎ、広葉樹林。

ほどなく尾根筋を辿り
十一時五分 山頂。雲で下界
の眺望はなし。雨降る中で集合
写真。すぐに下山開始。

十二時四十分 バスに戻り、
雪舟庭を見学。そばに見えるは
ずの鷲岩、京岩の景は雲で見え
ず。

十二時五十分 なかま温泉で
汗と泥を流し、道の駅で各自持
参の弁当で食事。

十四時十分 道の駅発

リーダーの人間ナビゲーター
加藤英彦さん(大14)の案内で
普段はあまり通ることのない県
道玖珠山国線や書曲野田線を行
く。立羽田の景は車窓から。

十五時 八鹿酒造で熊谷光顕
さん(大34)が迎えてくれる。
製品の試飲。

九重ICから大分IC経由で

大分へ

十六時三十分 大分駅上野の
森に着、解散

雨に降られても寒くはなく、
気温は山登りに最適。雨とガス
で、まだ残っていたであろう紅
葉を見られなかったのが残念
だった。加藤英彦幹事に感謝し
ながら、次回春の登山を楽しみ
に解散。

天神原山登山

浅野 総一(大学24回)

四極会の第二十九回登山会
は平成三十年五月十三日(日)、
佐伯市宇目の木浦鉦山に近い
天神原山(てんじんばるやま
/995.2m)に登った。

当初の計画は、アケボノツツ
ジの開花期に合わせ、佐伯市
と宮崎県日之影町の境にある
夏木山(1,386m)に登
る予定だった。参加者は計
十六人。夏木山登山口に至る
林道の荒れ具合を考慮し、今
回の登山会は貸切マイクロボ
スではなく、乗用車四台に分
乗した。

今年の春は暖かな日が続き、
新緑が美しい半面、山に咲く
ミツバツツジ、アケボノツツ
ジ、シヤクナゲなどの開花時
期が例年より早かった。夏木
山でも五月の大型連休にアケ
ボノツツジの花が散り始めて
いた。折悪しく五月十三日の
大分県内の天気予報は、午後
からの悪天候を予想していた。

JR大分駅を午前七時に出
発し、午前九時ごろ濃霧に覆
われた現地に到着。リーダー
の加藤英彦さん(大14)は目
的地の変更を指示した。天神
原山は山頂までの上りが一時
間弱。結果として、天神原山
から下山すると同時に雨の勢



いが増し、参加者は体を冷や
さずに済んだ。山の誘惑と悪
条件が交錯するとき、的確な
判断を下すには、相当の経験
と冷静さが必要だろう。

天神原山は日本山岳会東九州
支部が選定した「大分百山」
の一つ。参加者の中に百山完
登を目指す人がいたなら、運
よく数を稼いだことになる。

帰路は、文化財である「木
浦山千人間府(まぶ)」(木浦
鉦山最大の坑道跡)や「木浦
女郎の墓」を見学したが、こ
こはヒルへの用心が必要だ。
名水の風呂「唄げんかの湯」
で汗を流し、昼食を取りなが
ら歓談した。

歩こう会

長者原歩こう会

秋風の吹く十一月十一日、「九
州オルレ九重・やまなみコース」
の歩こう会を開催。大分駅の駐
車場に集合したときは少し曇っ
て風があり、長者原の天気が心
配された。会員三十三名、奥さ
ん等八名、小学生五名総勢四六
人が定刻に揃って元気に出発。
一年前に首都圏から故郷にU
ターンした渡辺秀生(大20)御
夫妻も参加。最高齢は品川光(大
2)さん。加嶋弘大分支部副支
部長(大22)、渡邊新十郎幹事(大
16)の挨拶、丸井弘美幹事(大
16)のコース説明に続き、全員
の自己紹介や意気込みを順に聞
いているうちに歩き初めの九重
夢大吊橋に到着。

揺れる橋を渡りながら、震動
の滝、少し盛りを過ぎた紅葉や
遠くの秋の山並みの景色を堪能
した。渡邊幹事の解説によると、
つり橋の長さ三百九十mは箱根
西麓・三島大吊橋に越されたが、
高さ百七十三mは依然として押
しも押されもせぬ日本一とのこと。
バスに戻り、十分ほどでい
よいよ歩き始める。飯田高原の
農産物直売所到着。今回は全員
がやまなみ牧場まで同じコース



を二km歩き、B班はそこが終点、A班はさらにオルレ・ルート沿いに四kmを歩く。A班は直ちに出発、B班は買物をして二十分遅れて歩き始めた。スキの中に延びる馬道を高原の空気を胸いっぱいを受けて歩いていると途中で観光乗馬にも出会った。心配された風もなく、青空が広がる絶好の歩き日和。じっとしているとやや寒さを感じるものの、歩くのには最適。予定の二kmを歩き終えたB班はそこからバスで長者原に移動。ビジターセンターで久住高原を

説明するビデオ上映を鑑賞しているうちにA班も到着。一緒に昼食を楽しむはずだったが、何せ広い園地のこと、合流できずそれぞれに持参のお弁当を開いた。気が付けば百mほどの距離だった。

帰りは牧の戸峠から瀬の本高原を経由して一路野津原の大分ダム工事現場へ向かう。車中では木山広喜(大10)さんのハーモニカ演奏に合わせて、ミニ合唱会。村祭り、旅愁など懐かしい秋から冬の歌でそれぞれに幼いころを思い出した。大分川ダムの広大な建設現場を見学して十七時に大分駅駐車場に到着。一人の故障もなく、楽しい歩こう会が終了した。

吉井町で桜を堪能

平成二十九年度第二回目の歩こう会は、年度末もギリギリの三月三十一日に実施された。本格的な春が早く訪れて初夏の風を感じる午前八時三十分、会員二十五名、奥様等十一名、お孫さん六名の合計四十二名が大分駅バス駐車場に集合。別大国道を経由して別府ICから大分自動車道に乗り、福岡県吉井町に向かった。

車内では加嶋弘大分支部副支部長(大22回)の挨拶に続いて歩こう会幹事の丸井弘美氏(16回)と松井一博氏(大18回)か

ら目的の吉井町や、歩くコースについての説明を受ける。

その後、参加者全員から自己紹介や近況報告。裁判員になって十日間裁判所に通ったこと、同期会の準備をしていること、毎週実施している霊山登山のお誘い、桜の季節を堪能している日常等、印象深い発言の数々を聞いていたうちにバスは杷木ICを経て目的のうきは市吉井町白壁ホールに到着。

まずは雛飾りが並ぶ観光協会で事務局長の藤田氏から吉井町の蔵通りやひな祭りについての詳しい説明を聞く。それを受けていざ、歩こう会の始まり。江戸時代に開削された運河に沿って広瀬淡窓の母親の実家である寺の跡(今は祇園神社)になっている、鳥越後太郎の生家、村田英雄の生家近く等を丸井幹事の説明を聞きながら歩く。そして目的の一つ、お雛様見物。白壁の蔵が並ぶ通りに点在する立丁尾花、林家、工房雛子等を見て回った。

十一時三十分、長距離のAコース三十四名と短距離のBコース八名が分離。Aコースは、国道二百十号を少し日田方面に歩き、南下して筑後川支流の巨瀬川堤防に一・八kmにわたって植えられた「流川の桜並木」まで約三kmの距離(ひなめぐりと合わせると五km)。まだ三月とは思えない暖かい筑後平野を

少し汗ばみながら気持ちよく歩いた。Bコースは酒蔵跡の版画ギャラリーを見物した後、金子文雄資料館を見物。ここには江戸時代の小さな木箱に入った箱雛等歴史的な雛飾りが多数展示されていて、館長さんが丁寧に説明してくれた。その後、A班と合流すべくバスで流川の桜並木へ。

おりしも開催されていた桜まつりのために、予定していた駐車場まではマイカーが連なっていた。途中でバスを降りて歩くことに。Bコースの歩く距離は当初予定の二kmをかなり超過することになった。桜並木では大勢の市民が雪のように舞う桜吹雪を楽しんでいた。その一角でわれ等「四極歩こう会」も各自持参の昼食会。桜はちよと散り始めたところで、弁当に花びらが落ちてくる。前後左右桜ばかり。一同花を堪能し、花に酔った。

昼食が終わると全員バスに戻り、約三km下流にあるJAの耳納里直売所へ。お土産購入の後、広場にある桜の木の下の大分支部旗と木山さん揮毫の横断幕を掲げて全員で記念撮影。帰りは朝倉ICから大分道に乗ることになり、その前にJR朝倉駅近くにある若竹酒造へ。十七世紀末に筑後地方で最初にできたという由緒ある酒蔵。古い大きな蔵の中で吟醸酒、甘酒など



多様な日本酒を試飲させてもらった。試飲したからにはお土産も買った。後は帰るだけ。帰りの車内では加藤英彦氏(大14)のハーモニカと美声による歌声指導で古き良き唱歌などをみんなて歌った。そのうち、歩いた疲れと試飲のお酒が効いたのか目をつぶる人が増えてきた。今回最長老の植木良彦氏(大5)から締めくくりの挨拶をいただき、別府ICで高速を降りて大分へ。桜に誘われて行楽に出かける人が多かつたらしく、別府市内から別大国道にかけての道中は珍しく渋滞に巻き込まれた。それでも何とか予定通り午後五時には出発地の大分駅バス駐車場に戻ることができた。行き返りのバスから眺める周囲はどこも桜、桜。山も笑っていた。桜に染まり尽くした春の一日だった。

囲碁大会

平成三十年度の四極囲碁大会は八月十八日(土)にホテルクドウを会場に十九名が参加して実施された。事前に大石政臣代表幹事(大14回)、余瀬貞彦幹事(大14回)を中心に組合せを決定。自己申告の段位が上位の人からAパート八名、Bパート五名、Cパート六名の三グループに分かれ、各グループ内の総当たり戦で順位を競った。

十組の碁盤に向かった対戦者の口からは時々、しもうた！とか、やられた！という声が漏れていた。勝った嬉しさを顔に出す人、悔しさを押し隠した表情の人、様々なミニドラマを演じながら午前十時から食事時間を挟んで繰り広げられた熱戦は、午後三時に終了した。人数が少ないB、Cパートでは四回または五回の対戦結果を集計するため勝敗が同率の人が多数いた。例えばBパートでは五人のうち三人が三勝一敗で並び、事前のルールにより生年月日が上の人から順位が付けられた。

成績は次の通り

Aパート

優勝 山口文生(大7回)

準優勝 余瀬貞彦(大14回)
三位 並松 洋(大14回)

Bパート
優勝 植木良彦(大5回)

準優勝 渡辺昭三(大10回)
三位 中西昌昭(大17回)

Cパート

優勝 木山広喜(大10回)

準優勝 三浦泰義(大4回)
三位 中村輝義(大7回)

表彰式では大分支部の佐藤辰夫副支部長(大22回)から賞品が渡された。三名の優勝者には牛肉が後日配達された。準優勝は重い缶ビールセット、三位以下もカレーや海苔の詰め合わせなど、全員がなんらかの賞品をゲット。次の再挑戦を誓いながら帰途にいった。



麻雀大会

仲嶋 豪(大学51回)

去る平成三十年九月一日、長浜町の麻雀クラブ「中」にて麻雀大会が開催されました。

当日は大雨で足元が悪く、参加人数が減少傾向の中、初参加の若い会員も複数いらっしやいます。昨年同様、十二名での開催になりました。

代表幹事の帆足先輩の挨拶にて、今回の参加者層は最年長と最年少の年齢差が六十歳あるとの紹介があり、若者の麻雀人口が減りつつあると言われている中で、これだけの世代間をまたがって障害なく交流が出来る麻雀大会を今後も続けて行く意義を感じました。

長年参加をしていて、いつも初戦から躓いている私ですが、例によって今年も初戦から負け続け、結局浮上する事もなくブービーとなってしまいました。毎年続けている会で、皆さま慣れていらっしやるのか、スムーズに進行でき、時間内に終了する事ができました。

開催曜日を土曜日に移し、広めの当会場にしてから数年が経ち、近年は労働時間短縮が叫

ばれている中、参加しやすい環境が整いつつあるので、来年もまた皆様とさらに盛り上がりながら楽しく麻雀ができることを期待しています。



四極会芸術文化祭 「自遊展」

飛躍する自遊展
昨年は八百十一名が
来場

平成二十七年に始められ、三年目を迎えた四極会芸術文化祭「自遊展」は、平成二十九年十二月四日から十日まで、大分アートプラザで開

催された。四十一名の会員が百点余の作品を出品。会場を訪れた人はこれまで最高の八百十一人を数えた。来場者は四極会の会員やその家族が多く、あちこちで知人の作品の前で立ち止まり、作者と会話する姿が見られた。会期中は出品者が交代で受付や会場案内を勤め、終了後には尾登憲治さん(大22回)が活動の様子を映像に編集したDVDを見て和気あいあいの打ち上げ会も催された。

今年度は一段と充実

第四回自遊展は、この四極大分が皆さんのお手元に届いてすぐ、十月二十九日から一週間、開催される。ちょうどこの時期、県内で開催中の「国民文化祭・おおいの2018」の行事に組み入れられ、県の助成金も得て内容も飛躍的に充実したものになる。

まず、大分市アートプラザの作品展示には出品者の枠を全国の会員に拡げるとともに詩吟を取り入れた。詩吟と書道・華道とのコラボも実演される。会報四極や四極会のホームページでも参加を呼び掛けた結果、県外の会員からも写真や短歌等が寄せられた。

充実された二つ目として、アートプラザを飛び出してガレリア竹町ドーム広場での音楽演奏が加わった。十月三十一日の午後一時から四時まで、三つの音楽グループが出演する。マンドリンクラブOBによる「マンドリン・アンサンブル」、男声合唱団「南蛮コール」、鼻笛（ノーズフルート）の女性グループが竹町界隈を賑やかにする。

また今回も尾登憲治さんが、会場での実施状況やインタビューに加えて出品者の作品の制作現場も取材して映像作品をまとめることになっている。来年の大分支部総会で紹介されることになろう。

この「拡大自遊展」を成功させるため、山口勇代表幹事（大10回）を中心とする十一名の幹事は五回の幹事会の他、随時、ジャンルごとに集まりをもって内容を詰め、計画を練っていった。自遊展が実施できるのは幹事の皆さんと出品者、出演者の皆さんの努力の賜物である。

出品作品数

版画(2) 油絵(3)、日本画(3)、写真(35)、陶芸(8)、工作物(6)、能面(6)、書道(5)、水墨画(1)、書籍(13)、川柳(9)、短歌(17)、俳句(7) 生花(2)

出演グループ
(OB) 詩吟、マンドリン、男声合唱、ノーズフルート



世代間交流

成和会

高商経専(大学10回)



大堀 敬直
(大学10回)

十二月五日(水)四極会合同忘年会を盛大に開催したので多数のご参加をお願いします。広瀬知事もご出席されます。

成和会は昭和六十三年に設立され、八月の例会で、百七十六回を迎えました。設立後、二十九年余に亘り、継

続してこれたのは成和会各会員の継続への熱意のあらわれだと感謝いたします。

ただ高齢化の波におかれ、年々会員が減少し続けており、通常の大学十回以上の出席は十名前後になっていきます。特に今年には桑原豊氏、田中康生氏のお二人が亡くなられたことは、本当にさびしい思いです。

お二人のご冥福を心から、お祈りいたします。

小生も成和会の事務局を担当し、早いもので十年を経過いたしました。会員の減少から会の存続について、会長、幹事共、協議を重ねております。

「例会について」今年も例年通り四月、六月、八月、十月と順調に例会を催してきました。

特に十二月五日(水)の四極会合同忘年会は広瀬知事に出席をお願いし、快諾をいただきました。大分センターホテルで行います。各会員はもちろん、多数の四極会員のご出席をお待ちしております。

二月例会は昨年と同様ふぐ料理(ふぐ八丁)で締めたいと思っております。

忘年会、新年会予約承り中!!

ホテルクドウ大分は、天然温泉のある、和室の多い、旅館風ホテルとして生まれ変わりました。宴会場、会議室もごさいます。宴会、会議、研修などに、ぜひご利用ください。

ホテルクドウ大分

Hotel Kudou OITA

大分市金池町1丁目11-6

TEL 097-532-3981 FAX 097-536-6217



山水会

(山水会の今後)

心強い16回生



帆足 三郎
(大学13回)

山水会が誕生したのが平成四年のことで、大学十一回〜二十年までの集まりだ。

私が会長を受け継いだのは平成十七年。八鹿の井上義彦氏から、ある日、突然電話がかかってきて「帆足君、次の山水会会長を引き受けてくれないか」と要請された。

四極会では、先輩からの頼まれ事はNOとは言えない、という伝統がある。当然、私も「わかりました。力不足ですが、全力を尽くします。」と返事をした。

それから十三年間、山水会の会長として何とか努めてきた。ところが、ここ二〜三年、定例会(奇数月の第三水曜日)の出席者が減少してきた。会長として、何とかしなくてはならないと思っていた。

その時に手を差しのべてくれたのが十六回生の皆さんでし

た。「そろそろ、あとを引き受けてもいいですよ」と言ってくれた。

この話には、宗公二郎氏、加藤英彦氏、橋本啓氏の三役も同調していただいた。

その後はトントン拍子で十六回生との話し合いが進展した。会長は十三回生からいきなり十六回生に飛ぶのはいかがなものか、ということ、十四回生の加藤英彦氏に頼むこととなり、心よく引き受けてくれた。

副会長には加賀田壮二郎氏、事務局長に安東政義氏、会計に丸井弘美氏、幹事には渡邊新十郎氏と、十六回生がバックアップしてくれることとなった。

十六回生のまとまりのよさには、いつもながら感心します。来年の三月までは今まで通りの体制で行って、五月から新体制となる。

私としては、残る半年間を精一杯頑張る覚悟です。皆さん、大変お世話になりました。

旦桜会

大学21〜30回生中心の会

今から十四年前、四十代半ばから五十代半ばの働き盛りの世代で結成された旦桜会も、現在

では大半のメンバーが還暦を過ぎ、第二の職場からも退職して完全にフリーになる人たちも増えてきました。

結成以来、概ね年間に三回集まりを持っていきます。最近では平成二十九年十月、平成三十年二月、平成三十年八月に例会を開催しました。会員の中から選ばれた講師が自分の従事する業務に関わる題材を取り上げて行う三十分程度の講演から始まります。

講演では、各分野の最新の動向や同窓生の活躍を聞いて、知識が深まると同時に、自分も頑張るぞという気持ち湧いてきます。

和やかな懇親がある程度進んだところで、毎回三〜四名のメンバーが自己紹介や近況報告のショートスピーチをするのが通例です。

杯を交わしながらの談笑とはまた違い、三分間でも壇上での話には話者の現況だけでなく、人となりも現れて興味深いものがあります。それぞれの生き方に感銘を受けることも度々です。

平成二十九年十月の講師は児玉豊武さん(大27回)による「大分県内の景気動向について」でした。一般的な経済状況ではなく、調査会社に勤める講師ならではの個別企業観察に基づく分

析で、景気の拡大は県内の中小企業にも広く増収増益という形で浸透していることを聞きました。

平成三十年二月は玉井鉄之さん(大25回)による「酒販業界の現状と課題について」。開業する店は多いけれども人材不足による経費アップの要因等もあり、開業後一年の「生存率」は二〜三割でしかない飲食店の苛烈な競争。税率改定・インバウンド消費等も踏まえて進化する酒販業界の動向等、現場に身を置く人にしか分からない興味深い話でした。

講師が経営者として取り組む会社の舵取りにも感銘を受けました。

平成三十年八月は、旦桜会会長甲斐幸丈さん(大21回)が講師で、テーマは「事業承継税制」。後継者の問題や将来の相続で悩む中小企業のオーナーには福音のごとき税制改正についての易しく詳細な説明で、自身が経営者である、あるいは経営者の周辺にいる会員は真剣に聞き入っていました。

今後十一月に続いて年が明けた二月に開催される予定です。

大二十一回から三十回の皆さん、気軽に事務局に声をかけてください。

青雲会

四極青雲会の紹介



木本 英光
(大学院1期生)
(大学25回)

四極青雲会は、四極会の世代間交流に参加させていたただいておりませんが、成和会をはじめとした世代ごとの同窓会とはちがいますので、紹介させていただきます。

四極青雲会は、大学院経済学研究科の同窓生の会で、平成二十二年(二十一年)五月に設立しました。会員資格は経済学研究科修士生のほか現役院生も対象としています。会員相互の親睦を図り、母校と四極会との連携のもと、ともに学び社会の発展に寄与することを目的としています。

大学院では社会人の修了者や外国人留学生も多く、青雲会では、そうした年齢や学歴・職歴、国籍が違ってもフラットに交流できる場としての会を目指すとともに切磋琢磨していただくことを目指しています。

会の活動では、五月の総会、年二回の例会が主なものです。総会では全会員を対象に開催し、会や母校に関係する方々を

招待しての記念講演を行うとともに懇親会を実施しています。毎年六十人〜七十人の方々に参加していただき、青雲会としては一大イベントになっています。講演者のお話に耳を傾け、懇親会では一年ぶりの旧交を温めています。

年二回の例会は八月と一月に開催しており、経済学研究所との共催で「イノベータータイプ経済セミナー」として実施しています。各界から多彩な講師の方を招き、一般の方々にも開かれたセミナーとして開催しており、好評を得ていると思います。今年八月のセミナーでは、湯布院玉の湯の社長の桑野和泉氏をお招きして、観光とまちづくりについて貴重なお話をさせていただきました。セミナーの後は会員を対象として懇親会を開催し、講師の方を囲み交流を図っています。

セミナーとしては、この他に、経済学研究所主催の「特別講座」を共催しています。例年十一月から一月に五回の講座があり、経済・社会の諸問題について関心がある方々なら誰でも参加できる講座となっています。

その他の活動としては、会員向けの会報「青雲」を毎年四月に千部（二十四ページ前後で編集）発行しています。

最後に、四極青雲会は経済学研究所と四極会との連携の

と、会員の交流を図りながら他の多くの方々との交流を図ってまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。イノベータータイプ経済セミナーへの参加をお待ちしております。

昭平会

昭平会へおいで



高野 浩子
(大学34回)

平成十七年の設立以来今年で十三年目を迎える昭平会。昭平会の名前の由来である平成が終りを迎えようとしています。

そろそろ「昭平会」の名前も皆さんに浸透して来ていると思っておりますが、いかがでしょうか。

私も今年で五十五歳となりまして、気づけば同期生も早い組は定年を迎えようとしています。

仕事人間で来た彼女らには第二の人生設計は出来ているのか？再就職しても今までのようには働けない、余暇は何をして過ごせば良いのか？

そんな時の頼りが同窓会です。大学時代の懐かしい話をしたり、疎遠になっていた友だちの近況を聞けたりするので。しかも自分で企画しなくても、勝

手に定期的に集まっている会があります。それが「昭平会」です。誰がいるのかわからなければ、四極会事務局に聞いてみてください。すぐに紹介してくれます。

会費も破格の五千円。ご親切にその内千円は百周年記念用に勝手に積立までしてくれまして。労せずして寄付金が積立され支払いまでしてくれます。（勿論ご本人の意思確認はいたします）懐かしい話を聞けるだけでなく色々な情報収集・情報交換も出来ます。日頃は上司と部下としてしか接することのないような二十代三十代の方ともフランクにお話できます。

本来は平成の世が終わるまでには大学四十一回生以降の若手の会を設立させなければいけないのですが、こちらは段階的に考え、次の年号が決まれば、次世代の名前も考えとしましょう。

本当は田中大先輩に名付け親になって頂きましたのですが、今はかないません。皆で知恵を絞りましょう。

前回まで木下会長の格調高い文章でお届けしていましたが、今回は勧誘活動に重きをおいて高野がお送りしました。因みに例会は二月、六月、九月、十一月の第二水曜開催を原則としています。昭平会、是非一度覗いてみて下さい。楽しいですよ。



中国料理 李白

享受歴史「歴史を楽しむ」 真正正銘本物の味を受け継いだ本格中国料理。
山海の幸、豊富な素材に格別な趣向を凝らし、悠久の時を経た贅なる料理の数々に舌鼓を打って下さい。



洋食レストラン カテリーナ

メインダイニングはカジュアルな雰囲気
のテラスレストラン
大型ガラスでの明るい店内はおしゃべりも
はずみず



OITA CENTURY HOTEL

大分市府内町1丁目4番28号
TEL:097-536-2777 FAX:097-536-2307
<http://www.oita-centuryhotel.jp/>

俳句

今泉 俊一 (大学1回)

雛祭り二歳の曾孫母になり
月天心影なき吾は宙に溶け
秋来たる純白の雲一直線

和田 康生 (大学2回)

海に向く海の大社の夏に入る
小吐を粹に落して扇置く
博多帯しやきつと締めて汗の引く

岡崎 尚靖 (大学3回)

明け初めや掃く堂守の杉落葉
高原やインスタ映へのラベンダー
手にかざし踊るメガホン甲子園

古森 順子 (大学10回)

小春日のデイサービスのビートルズ
水無月の昼を灯して忌を修す
父祖の地の薫風城址より渡る

短歌

辻野 治弘 (大学9回)

梅雨明けに生家跡地の草刈れば
旧き友らの笑顔が来たれり

日差し避けバス待ちおれば下校どき

汗も気にせず夢中でしゃべりをり

初盆に集ふ人みな高齢者

病苦を話題に時経つを忘る

高多 武文 (大学10回)

宮殿を取り巻く尾根に長城を

巡らすアンペール城へジープで登る

悲話もあるタージマハルの庭に立ち

「一見に如かず」を思い浮かべる

インド門あまたの人々集ひきて

戦勝祝るを今に伝ふる

小山田 熙光 (大学10回)

機内より眼下を見れば彼方此方に

地上絵に似たゴルフ場あり

洪水に度肝抜かれし蟬たちよ

梅雨が明けても歓声は無し

西日本大水害に立ち向かふ

ボラレティア等はティールエイジャー

木山 広喜 (大学10回)

左手のチクリとまでは覚えてる
呼ばれるまでの楽死体験

W杯世界の国々並びおり

東西ドイツ載る地図帳めくる

谷 庄一郎 (大学11回)

故郷の巡る静寂に浸かりおれば

眠らぬ沙漠遠くになりぬ

ゆったりと刻を過ごせし吾にムチ

定刻通りの貨車の響きぞ

ふと目覚む夜更けに聞こゆ救急車

平穩の営み一氣に崩るや

次森 久雄 (大学23回)

あこがれの銀幕の女優なつかしや

白黒映画に一日ひたるも

幕間も余韻にひたる映画祭

四本立も疲れ覚えさず

なつかしき昭和の女優のたたずまい

フィルム映像は心に生きる

川柳

糸永 文雄 (大学2回)

熱帯夜団扇クローラー扇風機

声高で会話が弾む米寿会

二の足を踏んで欠席ゴルフ会

松本 幸男 (大学5回)

リリーダリのエゴで動かす世界地図

手離せぬ手足となった免許証

どう使う残り少ないロスタイム

城元 保昭 (大学7回)

下積み能耐た努力が実を結ぶ

後期高齢実りの秋と自画自賛

終戦の玉音知らぬ世代ふえ

本多 廣 (大学12回)

年金を一寸かすめるお盆玉

この炎暑こんな地球に誰がした

赤とんぼ舞って仏の夏が散り



井上義彦(大11回)
熊谷光顕(大34回)
萱島周也(大53回)
清水優太郎(大60回)

時代の“おいしさ”を、あなたに。

八鹿酒造株式会社

〒879-4692 大分県玖珠郡九重町右田3364番地
TEL.0973-76-2888 FAX.0973-76-3071
ホームページ <http://www.yatsushika.com>

国政だより



内閣総理大臣補佐官 参議院議員

衛藤 晟一 (大学18回)

年々暑さが厳しくなっています。他県においては大水害・大地震の被害が続出しています。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

普通に想定外の事が起きるようになった気が致します。昨年・一昨年と大分県を襲った水害はまだ復興半ばで完全復活していない状況です。これからまだまだ台風に気がつけねばならない時期となります。四極会の皆様方におかれましては、十分なご注意をお願い致します。

自民党安倍総裁の三選が成るかどうかの総裁選挙が近づいています。(※九月二十日に三選された)

小泉総理の後継として安倍晋三総理が誕生し、体調不良であったがゆえにわずか一年足らずで総理大臣の椅子から離れた悔しさから、自民党が下野した折に、私は再度安倍復活に向けたシナリオを描くために有志を募り「創生日本」を立ち上げました。

微に入り細に入り入念に仕上げた構想は、平成二十四年十二月安倍自民党政権復活によって実行されることとなり、円高是正・株価上昇という効果をもたらす『財政再建なくして経済復興なし』という基本姿勢が推し進められました。

現在、政権交代前と比べて経済再生については、名目GDPは五百五十一兆円で過去最高、有効求人倍率は1.37倍で最高、就業者数も二百五十一万人増となりました。

景気が回復するにつれ国・地方での税収は23.8兆円増加し過去最高となっています。

今こそ地方創生の弾みをつけ、大分でも景気回復を実感できるようにしなければなりません。

国民が、『希望にあふれ誇りある日本を創るため』に
1) 頑張った人が報われる
2) すべての世代が安心して暮らせる社会保障改革

- 3) 美しいふるさとを守り、次世代へ引き渡す
 - 4) 外交の更なる展開
 - 5) 憲法改正 これらをやり遂げることを安倍晋三氏は総裁選挙において決意致しました。
- 私の身に置き換えても、同

県政だより

変えることが難しいことを変える



大分県議会議員

麻生 栄作 (大学32回)

四極会の同窓の皆様の日頃からのご支援助指導に対し、心から感謝申し上げます。

今年の夏は、命の危険を感じる残酷暑でしたが、如何お過ごしでしょうか。いよいよメガイイベント目白押しの秋となります。

十月六日から十一月二十五日まで開催されます国民文化祭と、全国障害者芸術・文化祭の大大分大会では、「おおいだ大茶会」をテーマに、子どもからお年寄りまで、障害のある方もない方も、誰もが参加し楽しむことができる文化のお祭りとなります。伝統文化

じく来年に向けて肝に銘じているところです。御指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。最後にりましたが、会員皆様の益々のご健勝並びにご活躍を心よりご祈念申し上げます。

から現在アートまで、様々な芸術文化に出会うことのできる二ヶ月間となります。県内全域を五つのエリア(水の森・祈りの谷・耕す里・出会の場・豊かな浦)に分けて、各地域で受け継がれている祭や食などを紹介します。この機会に、

意外と知らなかった地域資源を探し、見つけ、その魅力をそこで体験され、存分に堪能して楽しんで頂ければ幸いです。また、六月二十三・二十四の両日に開催されました『食育推進全国大会 in おおいた』では、福沢諭吉先生に因んで「みんなでかたろう食育のす

すめく美味しい！楽しい！元気な大分！』とのテーマのもと、実際に体感して食への理解を深めました。これを契機に『目指そう、健康長寿日本一！守ろう、大分の食文化！』を合言葉に、一過性にすることなく、国文祭・障害者芸文祭へ、レガシーとしてさらに大分の食文化を外へ発信していくこととなり、楽しみです。

一方、課題は、公共交通業界をはじめとする慢性的な担い手不足です。メガイイベントでの運転手不足は深刻です。大分市では、自動運転バスの実証実験を進め、実用化を目指しています。宮崎県では、過疎地の路線バスに、乗客と荷物を一緒に運ぶ「貨客混載」により、収支悪化に悩むバス会社の経営改善を目指しています。また、訪日外国人の「日本の夜は退屈だ」という不満に対し、ナイトタイムエコノミー(夜の経済活動)の活性化検討もスタートしています。

今後は、こうした新たな技術や手法も取り入れながら、来年のラグビーW杯も視野に入れた『変えることが難しいことを変える』、一過性ではない取組を進めて参ります。皆様方の一層のご健勝とご活躍をお祈りし、引き続きのご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

安全・安心の大分、発展する大分に向けて



大分県議会議員

木田 昇 (大学38回)

大分県議会での今任期も早いもので残りあと半年となりました。これまでの間、四極会の様々な会合を通じて同窓の皆様から色々とご教示を賜り、議員としての知見を広めることができまして、感謝と御礼を申し上げる次第です。

さて、一昨年の熊本地震の発生以降、昨年は九州北部豪雨と台風十八号、そして今年には中津市耶馬溪町の斜面崩壊、七月には西日本豪雨と、天変地異の大きな自然災害が続いております。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様から御見舞いを申し上げるところです。

本年七月の西日本豪雨災害は、平成に入って最大の被害を生み、数多くの尊い命が失われました。「もう少し早く避難しておけば」、「もっと強く避難の呼びかけができなかったのか」と、多くの人が感じたのではないのでしょうか。大分県では度重なる災害を経験し、県議会でも「防災・

減災」に対する議論を重ね、ハード・ソフトの両面にわたる様々な災害対策を行っています。今回の西日本豪雨を検証し、想定外の災害に対する備えに遺漏がないか、今一度の再点検が必要ではないかと思えます。

平成も最後の年を迎えますが、大分県の人口も最大で百二十八万人いたものが今年末には百十三万人台になるうとしています。四年前は百七十七万人でしたので、一年あたり約一万人の人口減少が進んでいる訳ですが、これに歯止めを掛けようとする県の中心的政策が「大分県版地方創生」です。

その対応策を練るため、地方創生のトップランナーと言われる島根県海士町へ視察調査に行ったところ、「自治体の職員と住民が知恵を出し合い、苦労を重ねながらも成果が表れるのに十年かかった」との話も伺いました。今任期中、私は県議会での一般質問に臨んで、地方創生に関連する質問も十項目ほ

ど行ってきましたが、県当局へ提案した内容が着実に前へ進んでいるものもあれば、一筋縄ではいかぬものもあります。地方創生は一朝一夕になるものではないかもしれませんが、実効性ある政策提言ができるよ

市政だより

大分市議会活動報告

大分市議会議長

野尻 哲雄 (大学24回)



四極会大分支部会員の皆様、ご無沙汰しています。皆様には、お元気で過ごしてのことと拝察申し上げます。

今年には、災害の多い年です。四月には、耶馬溪の崩落事故により六名の方が犠牲になり、六月には、大阪での震度六弱の地震。そして、七月には、西日本の広範囲を襲った梅雨前線によ

う、今後も自己研鑽に励んでまいります。むすびに、四極会の発展と会員皆様のご健勝をご祈念申し上げますとともに、引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

る豪雨、気象庁は大雨特別警報を出して警戒を呼び掛けました。十二府県にわたって死者・行方不明者合わせて、二百名を超える方が犠牲になりました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を願っております。

さて、大分市議会の本会議場には、戦後一貫して議場正面に国旗(日の丸)が掲揚されていませんでした。議場における国旗・市旗の掲揚状況は、中核市四十八市の中では、大分市を含めて五市、九州各県庁所在地では大分市のみ、県内(十四市)では大分市と竹田市のみが掲揚していません。

大分市議会にとっては、長年の課題でありましたが、三月議会に市民から「大分市議会本会議場に国旗を掲げること」を求め「陳情」が出されたことにより、総務常任委員会で陳情を採択し、三月二十六日の本会議で

多数決により採択されました。市議会議員の良識ある判断のおかげで、六月議会初日より写真のように正面に市旗とともに掲げられました。因みに、大分市が決定したことを受けて、竹田市も九月から本会議場に掲揚することが決まったそうです。これで大分県内十四市すべて国旗が掲揚されることになりました。

「大分市議会本会議場に国旗を掲げること」を求める陳情の趣旨 現在、市内の小中学校の入学式・卒業式においては、正面に国旗が掲げられており、国歌も歌われています。

平成十一年八月に国会にて「国旗及び国歌に関する法律」が施行され、教育基本法にも「国と郷土を愛する心を養うこと」が盛り込まれたことにより、国旗を掲げ、国歌を斉唱するようになりました。

そのような中、大分市議会のTV中継を見ますと本会議場の正面には大分市旗のみが掲げられており、日本の国旗が掲げられていない現状は残念とは思えません。

大分市の公式行事でも国旗が正面に掲げられておりますことから、市民の代表であり、市政をチェックする立場である大分市議会の議場においても、正面に国旗を掲げていただくべく陳情いたします。

平成三十年三月五日

職場だより

「地元大分をIT\OA・建設ICTでさらに元気に」

株式会社古城

白津営業所 小野 翔(大学61回)

株式会社古城白津営業所の小野翔と申します。

いつも四極会の行事では有意義な時間を過ごさせて頂き誠にありがとうございます。株式会社古城の紹介をさせて頂ければと思います。

株式会社古城は昭和二十七年、古城感光紙店としてスタートし、官公庁や建設関係の青焼き業務などを手がけてまいりました。機械販売が主力となり、三十六年に株式会社古城測量機械店に称号変更致しました。

その後、コンピュータを活用した設計製図システム(即ちCADシステム)に注力、納入前のシステム構築から、納入後の操作指導までフルサポートを実施。

平成八年に社名変更と同時にCIを実施、新しいマークの英文字「O」は、測量機械

のレンズと、将来への展望をイメージしています。

平成二十六年に白津営業所を開設し、白杵・津久見・佐伯・豊後大野等の県南地域のお客様のお役立ちをさせて頂いております。

また平成三十年八月には別府オフィスを開設いたしました。観光でますます盛り上がる別府地域をさらに盛り上げていく所存です。

当社は「地元企業への貢献」を第一の理念に掲げ、ITやOAに関する機器やインフラを顧客目線で提供し続けることで、地域に貢献することをモットーに事業を展開しております。展開している事業の内容は幅広く、測量機器からCADシステム、オフィス什器・LAN構築、サーバ構築や保守・ホームページ制作に至るまで、あらゆる企業の



ニーズに応えることが可能であり、創業から六十余年順調に事業を拡大し続けております。

年々若手社員が増えていくなか、社員のワークライフバランスを推進するため、週二回(月・水)のノー残業デーと週一回(金)のミニ残業デーを導入しております。顧客か



ら「対応が遅くなった」という意見もあり、社長の気持ちも揺らいだそうですが、「与えられた時間の中でITにて生産性を向上し、パフォーマンスを上げていこう」と、今後この取り組みを継続させていく意向です。

また、会社の発展と社員の幸せは一致すると考え、お客

様のニーズに誠実に対応できる人材の育成にも注力しております。

社員を育成し、事業を発展させること、ひいては地域を発展させることに全力を注ぎこれからも邁進していきます。株式会社古城の四極会メンバーを今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

帰っちぎたで！

平松毅一郎（大学42回）

今年四月、小学校、中学校、高校、大学と過ごし、青春の思い出が詰まった大分に二十五年ぶりに帰ってきました。

福岡銀行に入行以来、初めての地元「大分」勤務であり他の地域以上に、非常に楽しみにしております。

さて、私の大学時代ですが、毎日アルバイト、ラグビーの練習に明け暮れる日々を過ごしてきました。

高校時代に始めたラグビーは、今では私の友人関係、人格を形成する中核となっており、ます。高校時代、大学時代と



多くの練習や試合を行い、擦り傷や打撲といった痛い思い出だけではなく、多くの楽しい思い出が生まれました。

中でも最大の思い出は、九州大学ラグビー選手権（全国大学選手権の九州予選）で大分県代表として当時九州王者であった福岡大学と対戦した事です。

大分の代表が決定し、対戦カードが決まった際、「強すぎる、どうしようか！」と部員皆が口にしていました。実際当時の福岡大学は、ラグビーの有名高校から部員を多く集めており、関東の強豪大学ともほぼ互角の試合が出来る強さでした。

体格の劣る大分大学は、スクラムの劣勢を予測し、ボールの入れ方を変えたり、キック戦略、サインプレーの見直しを行いました。試合が成り立つようには奇襲戦法しかないなどの結論に至りました。

当日、緊張し試合に臨んだ我々でしたが、奇襲作戦が奏功し、サインプレーが決まりに決まりました。そして最初に敵陣

に大きく攻め込み相手の反則。三点を先制しました。その後一進一退の攻防が続きましたが、前半終了間際、福岡大学の力でゴールラインを押し込まれ「トライ！」何とかゴールポストから遠くに抑えた為四点（当時はトライは四点）。そのまま前半終了となりました。

なんと前半終了時点で、強豪福岡大学相手に三対四と僅か一点差。「もしかしたら勝つて全国大会かも」と皆が思い、興奮状態でハーフタイムを過ぎました。

しかし、後半が始まると奇襲作戦も効かなくなり、実力差が出てきました。後半、点差は大きく引き離され、結果として「大番狂わせ」とはいきませんでした。

先輩との最後の試合であった事、自分たちが思った以上のプレーが出来た事、当時競技場に応援に来ていた見学者を盛り上げたこと等から試合後涙が止まりませんでした。

いよいよ来年は大分で「ラグビーワールドカップ」が開催されます。その時に大分で体感出来るのを楽しみにしております。

仕事もラグビー同様頑張つてまいります。皆様、今後とも宜しくお願致します！

長い間お疲れ様でした

関 信介（大学29回）

感謝
（かけがえのない四年間へ
はじめに）

昭和五十六年、大学を卒業後、国鉄入社とともに大分を離れる。国鉄・JRでは、福岡、北九州、東京等で勤務。平成二十六年、大分駅ビルの立ち上げの任を受け、初の故郷大分勤務。平成二十七年四月、駅ビル開業後は、駅ビルの運営、大分の街づくり、賑わいづくりに多くの皆さまと共に取り組む。平成三十年六月、JR大分シティ社長を退任し、JR九州商事社長就任（福岡）を機に大分を離れる。

この度、四極会事務局より「四極大分」への寄稿依頼がありましたので、僭越ながら私の



大分での四年間（平成二十六年～三十年）の想いを綴らせていただきます。

駅ビルは起爆剤

JR大分シティ（大分駅ビル）の開業後三年間で大分中心市街地は大きく変貌しました。街なかの歩行者数は増え、以前駅裏と呼ばれた駅南エリアを中心に明るい街並みとなり、地価も上昇するなど経済面も好転しています。「百年に一度の街づくり」と言われる大分、順調なスタートを切ったと思います。（これから第二のスタート。次のステップへと新たな取り組みを期待します。）

「大分駅ビルが大分を変えた」とよく言われますが、私はそうは思っていません。駅ビルは「大分が変わる起爆剤」にすぎません。商店街の関係者、経済界、行政、地域の皆さまが「大分を元気にしたい、街なかを賑やかにしたい。」との強い思いを一つにして、様々な取り組みを行った結果です。私もその一員として活動できたことに喜びを感じています。しかし、駅ビル開業前は、まだそこまでの機運は高まっていなかった。多くの人

には駅ビルに対する不安感があつたのです。

四極会に支えられた4年間

開業前、「駅ビルは黒船」と言われることがあり、その都度、私は「駅ビルは大分を元気にするために・・・」と説明してきましたが・・・。

ちょうどその頃(平成二十六年五月)、四極会山水会で駅ビルについて卓話の機会をいただき、先輩を前に超緊張する中、駅ビルに対する私の思いを話しました。厳しい質問もありましたが、山水会帆足会長から「我々の先輩が大分のために精一杯頑張ろうとしている。我々も応援しよう。」とのご挨拶、その後の懇親会で多くの先輩からの激励の言葉は、その後の私の大きな支えとなりました。

且桜会甲斐会長、四極青雲会木本会長・岩尾先輩、昭平会木下会長をはじめとする皆さまには、関係会等にお声をかけていただき、広くご支援いただきました。

四極会事務局の皆さまにも大変お世話になりました。総会、世代間や職域交流会、熊本支部や宮崎支部総会等へのご案内をいただくなど、感謝しております。この他にも、多くの先輩や後輩から「駅ビルを利用しよるで」、「あんだ、頑張っちゃよんな」などと声を

かけていただく度に、感謝の気持ちと責任の重大さを感じていました。

おわりに

私にとつてかけがえのない四年間は四極会と共にあつたと言っても過言ではありませ

ん。四極会活動の中心的役割を担っておられる石川会長、相良名誉会長をはじめ役員、事務局の皆さまに感謝申し上げます。私も微力ではありますが福岡の地でお力になればと思っております。四極会の今後益々のご発展、会員の皆さまのご健勝をご祈念申し上げます。

最後に、公私ともに大変お世話になった田中康生先輩、私に人の繋がりの大切さを教えていただきました。心よりご冥福をお祈りします。



佐藤 辰夫 (大学22回)

四十四年間の会社生活を終えて

本年五月をもって四十四年間勤務した大成倉庫株に一区切りをつけました。

振り返ってみますと、大学卒業前後のオイルショック・ドルショック、バブル経済とバブルの崩壊、リーマンショック等々の大変化を経験して参りました。その中であれをやっておけば、あの時こうしておけばと思うことはありますが、まあ大過なく勤め終えたというところでしょうか。

退職後については数年前よりあれやこれやと思いを巡らし、いくつか挑戦したいことを決めておりました。

その中の一つが「仏」の勉強で、この五月より、ある大学の社会人向け仏教講座の受講を始めました。もともと仏像に興味があり京都・奈良には仏像を見るためだけにいくこともありました。(ちなみに、私の一番好きな仏像は奈良中宮寺の半跏思惟像です。)そこで仏の世界に興味をわきその教えにも興味が出てきたわけです。

仏教は六世紀半ばに伝来し、聖徳太子が仏教の基礎を築き、以降千五百年間日本人の心に

大きな影響を与えてきました。私自身の勉強はまだまだ初步の段階ですが、ひとつだけ重要な言葉を覚ええました。それは、「無明(むみょう)」という言葉です。無明とは、文字通り「明かりがない、真っ暗闇で何も見えない」ということですが、この言葉は仏教

語で、人間の迷いのことで、人間が根本的にもつている無知のことを指します。人生における人間の苦しみは、すべてこの無明から始まることをブツダは瞑想の中から発見しました。

仰ぐべき光(教え)がなく、ただ自分の経験と知識だけを頼りにして生きている人の姿を言い表し、「私は何でも分かっている、教えられなくても知っている」とも思っている、迷いの根っこになつてい

ると教えられています。人間の知恵を最大の拠り所にして現代人には、このような「分かっている、分かつたつもり」の人が多いのではないのでしょうか。

そのほかにやってみたいこととして、同じ精神世界の「神」について



も興味を持っております。神話の世界も興味がありますし、神仏習合思想や江戸期の檀家制度、明治の廃仏毀釈についても勉強できればと思います。

また実家には多少の畑がありますので草刈だけやっているのでなく、野菜や花作りも楽しみたいと考えております。

四極会活動への参加は五十歳を過ぎてからだだったと思いますが、現在は大分支部の副支部長を仰せつかつておりまして、微力ながら支部の発展に貢献していきたいと思っております。

二千二十二年には創立百周年を迎えます。皆様と一緒に盛大にお祝いできればと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

社長紹介

みんなで護りたい、文化財

山路 しのぶ(大分44回)

㈱文化財保存活用研究所

代表取締役

大分県には崖に彫られた石仏「磨崖仏」がたくさんあるのをご存知でしょうか。その多さは全国の約六割を占めると言われています。さらに磨崖仏では唯一の国宝「臼杵磨崖仏」



存科学」という文化財学における新分野を取り入れ、劣化調査・修理・維持管理を専門的にかつ、一貫して行っている会社はあまり例を見かけません。独自性・新規性に富んだ会社といっても過言ではないと自負しています。

平成二十一

をはじめ、「熊野磨崖仏」や「菅尾磨崖仏」「大分元町石仏」など国指定文化財の磨崖仏が数多く存在しています。また、大分は「磨崖仏」の他にも「石塔」や「石橋」といった石造文化財の宝庫でもあります。そういった石造文化財のほとんどが屋外にあり、常に風雨や日光にさらされ、植物が繁茂するなど周辺環境から直接影響を受けながら少しずつ確実に劣化が進んでいます。

私が起こした会社では、その「磨崖仏」をはじめとした屋外文化財の調査、修復等をおこなっています。文化財発掘調査支援業務の会社は数多くありますが、弊社のように「保

年六月に設立、今年で十年目を迎えました。この仕事を始めたのは結婚後、文化財保存科学を研究していた主人がいつも「屋外文化財を修復できる技術者がほとんどいない」と言っていたことから、技術者を育て、屋外文化財を保存できる会社の必要性を感じ会社設立を決意しました。もちろん私も設立当時から文化財保存科学を学び、現場で技術を磨き、実績を重ねてきました。

そうした経緯から、それまで自分にとって関係ないと思っていた分野へ導かれ、たくさん苦労はあるものの、同時に学びや喜びを享受できる今があるとは、人生は不思議なものだと強く感じています。

経済学部を卒業し、経営者と同時に技術者でもあることから四極会といった同窓会に出席すると、興味や関心を持ってくださる方から、お声をかけて頂くことが多いです。そして、各地区の歴史研究会に所属して学んでおられる先輩にも巡り合えることができました。

文化財を保存するだけでなく、指定未指定にかかわらず地域に存在する地域の宝である文化財の魅力や保存修理についてお伝えすることで地域資源としての文化財を皆さんとともに護っていかれたらと考えています。

今、日本における外国人観光客の数が年々増加しており、観光資源として活用するため文化財の保存や維持管理が見直されてきています。それも一つの契機でいい方向に向かってくるといいのですが、修復の相談で現地に向かい残念に感じることは地域住民の皆さんの文化財に対する関心の薄さです。

人口減少や地域のつながりの希薄さも影響にあることでしょうが、文化財は地域の皆さんの関心の薄さが劣化を進めていくと言っても過言ではありません。関心があっても手入れがなされ、状態の変化に気づくこともあるからです。

先人から受け継いだ文化財を将来の人へより良い状態でバトンタッチできるように、私たちは責任をもって保存修理をおこなっています。

そして、歴史に興味がある方はもちろん、興味が無い方でも自分の通勤途中やお散歩ルートにあるお寺や神社などから覗いてみませんか。また、休日のお出かけには大分の魅力の一つである石造文化財めぐりなどいかがでしょうか。

皆さんの関心も文化財の保護となります。「皆さんと一緒に文化財を護っていききたい」そう思いながら、今日も現場へ向かいます。



幸せはこぶ はとタクシー

お得な運賃 楽しい遊覧 安全なご旅行 真心サービス

9人乗りジャンボタクシー 28人乗りマイクロバス リフト付き車いす用・ストレッチャー用福祉タクシー 中型バス・大型バスをご準備しています。ご利用目的に合わせてお選びください。

タクシーのご用命は
(097) 569-2001

大分はとタクシー株式会社

〒870-1121 大分市大字鷺野 1046 番地の 8
TEL/FAX (097) 569-6501 URL <http://www.hatokotsu.com>
《 福祉部門 》 別大はと福祉サービス TEL (097) 569-6653

社会人一年生のプロフィール

- ① 所属部署又は支店名
- ② 出身高校
- ③ ゼミ名
- ④ 大学でのクラブ、同好会
- ⑤ 大学の思い出
- ⑥ 趣味
- ⑦ 会社での抱負

株大分銀行

志水 敦 (大学66回)



- ① 鶴崎支店
- ② 大分豊府高等学校
- ③ 宇野真人ゼミ
- ④ 思学会
- ⑤ 思学会のメンバーと毎年夏にキャンプをしたことです。約百名の参加者と二泊三日を共にし、協力することを学びました。
- ⑥ サッカー、旅行、ドライブ
- ⑦ 長年に亘り先輩たちが培ってきた歴史と伝統を大切に、当行の名に恥じぬよう、日々努力して参ります。諸先輩方と力を合わせ、より魅力的な会社を作っていくけるよう、積極的にチャレンジしたいと思います。

株豊和銀行

富田 鈴賀 (大学66回)



- ① 亀川支店
- ② 大分上野丘高等学校
- ③ 石井まことゼミ
- ④ なし
- ⑤ 大学の思い出
ゼミの合宿。他大学・他学部の方々と交流し、町おこしの企画をしたこと。
- ⑥ 人と関わること。地域行事に参加するなかで、様々な年齢・業種の方とお話することが好きです。
- ⑦ 自身を振り返ったときに「いい仕事をしてきた」と思えるような、悔いのない仕事をしたいです。いつか出来るかもしれない子どもに、自分の仕事を誇らしく語れるように日々明るく、楽しく、そして正しく仕事をしていきたいです。

大分バス(株)

渡辺 裕太 (大学66回)



- ① 総務部電算課
- ② 大分鶴崎高等学校
- ③ 松隈久昭ゼミ
- ④ 無所属
- ⑤ 大学での思い出は、ゼミの活動でアンケート調査を行ったことです。どのようにしたらアンケートに答えてもらえるのかなど、座学だけでは分からない事を学ぶよい経験となりました。
- ⑥ 趣味は読書です。ジャンルを問わず、興味を持ったものは積極的に読んでいます。
- ⑦ まだ知識や経験不足で、上司や先輩に迷惑をかけています。日々勉強し、一日でも早く一人前になれるよう努力していきます。

株オーイーシー

片山 達郎 (大学66回)



① ビジネスソリューション部

② 竹田高等学校

③ 山浦ゼミ

④ 学生ボランティア団体 sure、獅子舞サークル

⑤ 大学の地域課題解決プログラム「田舎で輝き隊！」に所属し、様々な地域で活動したこと。美味しい食事や観光資源を堪能したことはもちろん、地域の方と直接話し合いや会議を重ねて、目標に向かう経験ができた。

⑥ 写真を撮りに行くこと、サッカー

⑦ 現在の緊張感がある程度継続し、振る舞いや態度に気を遣いたい。また、技術的な基礎基本を日々学び、文系ならではの視点も活かしつつ成長していきたい。

株豊後企画集団

小川 史佳 (大学66回)



- ① お部屋ラボ 大分駅上野の森口支店
- ② 島根県 益田高等学校
- ③ 加藤典生ゼミ
- ④ ONLINE (テニスサークル) SHINY (フットサルサークル)
- ⑤ サークルのメンバーとセブ島

AR体験 まずはアプリをダウンロード!

左の写真(P8の麻雀大会の写真)に、専用ARアプリを起動したスマホをかざすと動画や音声流れます。



⑥ 旅行
石垣島に行ってみたくて、入社して半年が経とうとしています。

⑦ まだ出来ることは少ないですが、一つ一つ覚えていき、丁寧な仕事を心掛けて頑張りたいです。

四極会女性部会「桃優会」発足について

桃優会副会長

佐藤 三和 (大学45回)

二千二十二年に大分大学経済学部は百周年を迎えます。

これまで長きに亘り、経済学部では多くの卒業生たちを輩出してきました。また、卒業生有志による同窓会活動は、早い段階から行われてきました。昭和初期には、その同窓会に「四極会」という名称がつけられたとのことですが、千九百五十七年に開校三十五周年を迎えた折に、現在の形となる「四極会」が経済学部の同窓会として新たに発足しました。現在の会員数は約一万二千人で、そのうち、女性会員は三千五百名を超えています。



長、大園広子さん(大34回)を事務局長とした女性部会「桃優会」を立ち上げました。

「桃優会」と名付けた理由は、女性部会なので、「桃」は女の子(?!)の成長を願う桃の節句から、「優」は女性らしく、優しさを表す(?!)意味からです。

今年の二月七日に石川会長を始めとする先輩方のご協力を頂き、無事に女性部会設立総会が開催されました。女性会員三十六名を含む四十一名のご参加を頂き、見事、盛会のうちに終了することができました。第一回目の立ち上げミーティングから七か月程で開催まで至ることができましたのも、関係者の皆さまのご協力の賜物と心より感謝いたしております。

八月二十二日には、第二回目の例会が開催され、二十四名(東京四極会から千葉史さん/大41回の参加もありました)のご参加を頂き、女性会員の一層の親交を深めるいい会となりました。

今後、同窓会のネットワークを大いに活用し、卒業生間などらびに卒業生・在学生間などの女性会員の親交を深めるとともに、女性部会を通じて各女性会員にとってもメリットのある活動ができればと思っております。

す。そして、女性会員が誇りと夢を持って様々な形で活発に活動していくことで、伝統ある四極会のみならず、大分大学経済学部のさらなる発展につながることを願っています。

☆今後の活動計画

- 例年会二回開催予定
- 内容 女性向けセミナー・懇親会
- (初回・色彩講座/二回目・マナー講座)

「敷居の高くない、参加しやすい会」ですので、女性の皆さまのご参加、お待ちしております！

募金で盛り上げよう百周年

千九百二十二年(大正十一年)に大分高等商業学校として産声を上げた大分大学経済学部は二千二十二年に百周年を迎える。これを目指して四極会では平成二十八年から「百周年記念事業準備委員会」で事業の在り方を検討したのを受け、平成二十九年十一月に経済学部と共同で「記念事業実行委員会」が設置されて事業計画が策定された。その結果は本年七月二十九日の評議員会・支部長会議で承認決定された。

主要な事業として、「百周年記念事業」「母校教育施設の充実」「一般市民向け記念講演会の開催」「一般市民向け記念公開講座の開催」「四極会員向け事業基金創設」の五項目を掲げている。

記念事業成功の鍵は何といっても募金による資金の確保にある。四極会本部は早速八月早々に全国の四極会員全員に趣意書を送付して募金活動を開始した。一口一万円で、三十代、五十代は二、三口をお願いしている。

募金目標額一億三千万円は会員数により割り当てられ、大分支部は二千二百三十万円(個人会員)と設定された。募金開始以来九月までの二ヶ月で六十三人から百十六万円の募金が寄せられた。経済学部のおひざ元支部として、会員の皆様のご支援を得て是非とも早期に目標を達成したい。大分支部会員の皆様には、同窓生と会う機会ごとに百周年を話題にするなど、ムードを高めていただきたい。会員とは別に法人に対しても本部役員や経済学部長とともに依頼活動を進めることになっている。

本年九月末現在の
大分支部募金状況
募金者六十三人
募金額百十六万万円

物故者

(ご冥福をお祈りいたします。)

平成二十九年十月以降、四極会に連絡のあった方

- ・高商二十回 桑原 豊様 (平成三十年二月十二日)
- ・経専二十三回 首藤 文人様 (平成二十九年十一月十三日)
- ・経専二十三回 宮森 佳璋様 (平成二十九年十月二十日)
- ・経専二十五回 渡邊 忠様 (平成三十年四月十六日)
- ・経専二十六回 田中 康生様 (平成三十年三月六日)
- ・経専二十七回 下川 明様 (平成三十年四月二十二日)
- ・経専二十七回 蓑浦 隆幸様 (平成二十九年十二月二十九日)
- ・大学二回 井尾 文昭様 (平成三十年二月十八日)
- ・大学五回 安波 利一様 (平成二十九年十月三十日)
- ・大学六回 佐藤 隆様 (平成二十九年二月一日)
- ・大学六回 松本 昭良様 (平成二十九年四月九日)
- ・大学九回 藤沢 秀行様 (平成三十年四月十五日)

三先輩 在りし日の面影

昨年九月から半年の間に四極会は会員の支えとなってきた三人の重鎮を失いました。桑原豊氏（高20）、田中康生氏（経26）、

椋野建二氏（大7）。大分支部にとつても、支部長を務めて支部活動の基盤を築き、また最後まで支部の各種行事をご指導く

ださるなど、かけがえのない先輩方でした。支部行事にご参加いただいた折の写真を掲載して在りし日の面影を偲びたいと思います。



平成22年2月佐賀関半島歩こう会



平成22年7月大分支部総会



平成22年12月 大分支部反省会



平成23年5月大分支部総会



平成23年5月大分支部総会



平成23年6月竹中CC



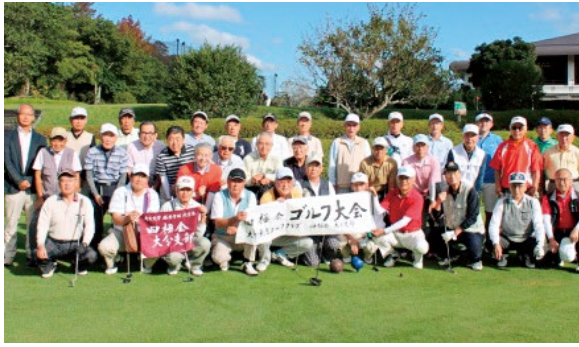
平成25年5月大分支部総会



平成25年5月大分支部総会



平成25年5月大分支部総会



平成27年10月東急GC



平成28年5月竹中CC



平成28年5月田中先輩の米寿祝賀会



平成29年4月竹中CC



平成29年8月囲碁大会



平成22年8月囲碁大会



●表紙写真の言葉
 「写真『速吸瀬戸(豊予海峡)』」
 村尾 哲弘 (大7回)
 佐賀関が好きだ。漁港のあたりは私が生まれた佐伯市蒲江浦と同じにほひがする。
 最近には暇があると関崎海星館から、白い灯台前の速吸瀬戸をぼんやり眺める。海の色や、その表情は刻一刻変化して見厭きない。行き交う船は、客船、貨物船、漁船、ボート等々、実に雑多。想いをめぐらせていると、時の経つのを忘れてしまう。少し視線を上げると四国の伊方原発のある半島の先端だ。将に豊予海峡、いつの日にか橋が出るのか、トンネルになるのか想像するだけで楽しい。

編集後記

猛暑に大型台風、大雨、土砂崩れ…。自然に翻弄され続けている。そんな中ではあるが、大分では「国民文化祭おおいた2018」、全国障害者芸術・文化祭おおいた大会、「ラグビーW杯日本大会」…など、ビッグイベントが開催中であり、開催が予定されている。話題が尽きない大分である。

二十二十年には東京オリンピック、そして四年後の二十二年には四極会が百周年を迎える。まだまだ先のようにあるが、その時はすぐやって来る。そう四年後、私が六十歳。ワツ、六十歳。すぐ来る。どうしよう?????

「四極大分」を通して、多くの会員の方々の人生を感じ、これからの自分を考えていきたいと思う。

読者の皆さま、四極会大分支部では世代間交流や親睦会など、様々な活動を行っています。積極的なご参加をお待ちしています。

編集委員

- 委員長 高井 道晴 (大学21回)
- 委員 柴尾 敏夫 (大学18回)
- 佐藤 浩一 (大学24回)
- 小河 裕宣 (大学33回)
- 住山 真美 (大学47回)
- 高橋 秀武 (大学21回)
- 事務局

パートナー店舗にて
JCB大分カードでお買い物すると
OkiDokiポイントが**2倍**付きます！
※一部対象外の店舗もあります

Oki Doki ポイントが
2倍

だいきんパートナー

靴の
カガシヤ

TOKIWA

ホテル日航大分
オアシスタワー

※(株)大分カードが発行する OkiDoki ポイントの付いている個人カードが対象です。



世界にひとつ。
あなたにひとつ。

大分銀行グループ

株式会社 大分カード

代表取締役社長 三浦 洋一
(大学24回)

〒870-0035 大分市中央町2-9-22
TEL.097-537-4347
http://www.oitacard.co.jp/

詳しくはこちら

大分カード

検索

住生活のことなら 私どもにお任せください

売買

マンション・戸建・土地の売却、購入、買い替えに関するご相談、お手続きをサポート。
「中古物件購入+リフォーム」のご相談も承ります。



賃貸管理

入居者募集から入居者管理、建物管理までさまざまな形でサポート。
当社管理物件入居率
※95.3%を実現。
※平成30年3月末現在



空き家管理

留守宅や空き家の管理をサポート。入院やリハビリ、転勤や相続などでご自宅を管理することが難しくなった方へ最適なサービスをご提供いたします。



相続サポート

相続対策や資産継承をサポート。事前の対策から相続後の対応まで、円満でスムーズな相続を実現するためのサポートをさせていただきます。





不動産の総合コーディネーター
BUNGO (株)豊後企画集団

〒870-0007 大分市王子南町5番6号

TEL. **097-537-4975**
(大代表)

豊後企画

検索

